



### サニーは鹿児島へ…

別れというものはどんな時でもつらいものですが、好きだったものがいなくなる寂しさやつらさは本人にしかわかりません。

きのう、イベントで動物計量クイズをやりました。平成25年のヘビ年にちなみ、ビルマニシキヘビの計量クイズを園内の芝生広場で行いました。400人ほどのお子さんや家族連れが集まり結構にぎわったのですが、その広場に面するクロサイの展示場前で一組の母娘がジッとサニーを見ていました。



動物計量クイズ会場



ニシキヘビは何キ口かな？

あまりに真剣に見ているので気になってそちらへ行ってみました。その母娘の隣には陽気な親子が一緒。その親子に「サニーはあと2週間ぐらいで鹿児島へ行っちゃうんですよ」と声をかけると、後ろ姿だった先の母娘も私のほうを振りかえりました。娘さんは小学校高学年ぐらいと思われました。そしてその目は真っ赤にうるんでいました。そのお母さんが「娘は、サニーが産まれたときから好きでずっと通っていたんですが、今日ここへきて始めてそれを知りショックで…」と言うと、娘さんはさらにこらえきれない様子になりました。私も、グツとききましたが努めて明るく、「向こうへ行ってもかみねのこと忘れないで、元気な赤ちゃんを産んでくれるといいね」というのが精いっぱい、「メッセージノートがあるから、サニーに何か書いてあげてね」と言ってイベント会場のほうへ戻りました。



生後4日目の母子



大好きな母乳を飲んで…

戻りながら、サニーが産まれたころの様子やお母さんと一緒にグランドを元気いっぱい走り回っていたことなどが思い出され、同時に、先ほどの娘さんのように動物の成長を見守ってくれる小さい子がいて、その子にはとてもつらいことなのだろうな、と思うと目頭が熱くなってきました。



母・マキとグランドを散歩中

動物園には色々な事情があって動物の移動は、頻繁ではないにしても、よくある出来事です。しかし、新しい動物が来たときは早く新しい環境に慣れてもらうことを期待しながら歓迎しますが、去っていく動物を載せたトラックを見送るときの寂寥感といったら…。出会いや別れが新たな一歩とは分かっている、この感情は抑制のしようがありません。先の娘さんもその様なきわめて人間らしい感情を抱き、そして成長していくことと思います。そうした人間としての素直な感情を育んでいく機会を提供できるのも動物園の役割のひとつなのかもしれません。

イベント会場からクロサイの展示場を見ると、母娘はいつまでもメッセージノートに何かを綴っていました。



旅立ち前の3歳になったサニー・うしろは輸送箱



メッセージ受付中…13日まで

(補足) 平成24年10月28日にお別れ会をやりました。その時の様子は、飼育員のブログを参照下さい。

2012年11月5日

---

## 過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)